

平成26年度 特集展示(会期：平成27年2月10日(火)～4月5日(日))



大宰府の役所

—大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区成果展—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

はじめに 不丁地区官衙跡とは？

大宰府政庁は、重要な儀式や役所の最高意思決定が行われる大宰府の中心施設です。しかし政庁だけで、国防と外交、西海道(九州地方)の統治を職務とする大宰府のすべての役割をはたすことはできません。政庁の周辺には実務を行う多くの官衙(役所)が存在しました。大宰府政庁の周囲には、発掘調査によって9つの地区からなる官衙跡が発見されています。

なかでも政庁跡の南西に隣接する不丁地区では、硯や帳簿木簡が出土したことから、軍団兵士の差配や大野城など防衛施設の管理、生産活動の運営等に関わる事務を行う「政所」が存在したと推定されます。いっぽう鑄造や漆製品の生産、紫草を使った染物の生産などを担当する「匠司」、「細工所」、「貢上染物所」等の工房も併存していました。

九州歴史資料館は昭和46年から平成16年まで行った不丁地区の正式調査報告書を刊行しました。これを記念し、出土資料を中心として調査成果を展示します。

1 役所と官人の風景

不丁地区官衙は、南北に流れる二つの境界によって東西に隣接する官衙と区切られており、東西約87m、南北約180m以上の範囲に広がります。奈良時代前半大型の掘立柱建物が南北に並列しますが、その後、東



不丁地区(手前)から北東の大宰府政庁跡を望む

の境界溝を埋めて東西方向の築地塀を築くなどして3区画に分かれ、各区域で逆T字やL字の建物配置をとるようになります。出土瓦類や礎石建物の存在から、瓦葺建物も幾つか存在したでしょう。多量の木簡によって西海道各地との繋がりが理解されますが、染物原料に関わる「紫草」銘木簡の多さから大宰府の役所の一つ「貢上染物所」にも比定されています。さらに政務や役職に関わる墨書土器、多量の硯類などから、政務を担い、「刀筆の吏」と呼ばれた古代の役人が存在し、実務的な役所として機能していたことが窺えます。

2 大宰府を支えた工房と厨

不丁地区では、漆付着土器や鍛冶・鑄造関連遺物など工房を想起させる遺物も多量に出土しています。それらは7世紀後半～末の流路からも数多く出土し、とくに漆付着土器はその時期の資料が多く、第Ⅱ期大宰府政庁の造営が本格的に行われる段階に、漆を使った建築資材等を供給するような工房が置かれたのでしょう。8世紀になると工房的様相は消え、建物の修理や再建等にに応じた小規模な生産が行われたようです。

一方、調査では1,400点もの製塩土器が出土し、「厨」銘と推定される墨書土器も出土することから、厨の存在も推定されます。そうした遺物は不丁地区の南半部に偏る傾向があることから、南側に厨が存在するのかもしれませんが。



大宰府政庁周辺官衙復元図(左の写真とほぼ同じ方向から)

3 大宰府の西海道統治

奈良時代から平安時代には、本州の国々と異なり、西海道の九国三島のみは、律令国家の中央政府の命令を受けつつ大宰府が統治しました。九州は中国や韓半島に近く、対外交渉の重要な拠点であったため、律令国家は国防と外交を担う大宰府が九州全体を統治する体制を構築します。大宰府は大宝元年～2年(701～2)に施行された大宝律令によって完成しましたが、その前身として7世紀には、筑紫大宰や筑紫総領という官職が置られました。筑紫大宰は外交と九州各地の豪族軍の動員権を掌握し、筑紫総領は地域の豪族が任命される評(郡の前身)の役人の人事権を掌握しており、その伝統が8世紀以降の大宰府に引き継がれたのです。

不丁地区官衙跡出土資料



西海道各地の地名が書かれた荷札木簡 (当館蔵)



墨書土器 (当館蔵)



硯各種と水滴 (当館蔵)



人形木製品 (当館蔵)

4 役所と祭祀

538年(または552年)、百済の聖明王^{くだら せいめいおう}は仏像^{きょうろん}と經論^{きょうろん}を伝え、推古天皇10年(602)には、百済僧觀勒^{かんろく}が曆本^{こよみのほん}・天文地理書^{てんぶんちりじ}・遁甲方術^{とんこうほうじゆつ}の書をもたらし、新たな思想・学問・技術が始まりました。律令期に行われた祭祀を律令祭祀と称しますが、中央政府に設置された陰陽寮^{おんみょうりやう}に所属する陰陽師^{おんみょうし}は天文觀測^{てんぶんくわんそく}・造曆^{ぞうれき}・報時^{ほうじ}・卜筮^{ぼくせい}等を扱いました。大宰府にも陰陽師が一人置かれ祭祀を掌りました。不丁地区官衙跡では、齋串^{いぐし}・人形^{ひとがた}・陽物形^{ようもつがた}・船形^{ふながた}等の律令祭祀に関わる木製品が境界溝SD320・2340から出土しています。人形は形代^{かたしろ}として体のケガレを移し水に流したもので、陽物形は井戸祭祀に用いられました。また、土馬^{どば}は雨乞いの儀式に使用しました。大宰府でも災害やケガレを防ぐため様々な祭祀が行われていたのです。

(学芸調査室 酒井芳司)



緑釉香炉蓋片 (当館蔵)



編集 発行: 平成27年2月10日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>